

バリ舞踊における基本姿勢(チャンケット)の定着過程

スポーツ人類学研究領域

5006A028-8 國寶真美

研究指導教員： 寒川恒夫教授

研究目的

インドネシアのバリ島(以下バリ)の女性の舞踊ではチャンケット(canket)と呼ばれる胸を張りおしりを突き出し膝を曲げた姿勢がある。これはバリ舞踊の代表的な特徴の一つであり、現在のバリにおいてこの曲線こそが「美しさ」と捉えられているものである。しかしアジアの舞踊の人類学的研究を数多く行っている宮尾慈良によると、このチャンケットは古くからバリ舞踊の中にあつたものではなく、1930年代に特に強調して取り入れられ始めたと考えられている(宮尾、2007:188)。バリにおいて1920～30年代とは、西洋文化の刺激を受けることで新たな伝統文化が創造された時代であり、バリ文化の一つの転換期ともいえる時代である。よってチャンケットもこの流れの一つとして創造されたと考えることができるが、現在先行研究からは明らかになっておらず、また西洋の代表的な舞踊であるバレエの姿勢や美意識から鑑みるにチャンケットの姿勢はそれと相反するものであるため、それが西洋文化を取り入れたものだと考えにくい。舞踊において「姿勢」とは、動きを行う上で中心的な部分であり、物理的な重要性を担っていると同時にその舞踊および背景にある文化の精神性が表れている重要な部分の一つでもある。よってその重要部分を変更するに至った状況は興味深く、背景にあるこの時代のバリを知る上で重要であると考えられる。

よって本研究では現在バリ舞踊においてチャンケットがどのように捉えられているのか、またかつては見られなかったその姿勢が何の影響によって、なぜ現在のように定着したのかというチャンケットの定着過程について明らかにし、そこからこの時代のバリの文化的背景を考察していくことを目的とする。

第一章

バリにおける舞踊とは「宗教儀礼としての舞踊」と「観光資源としての舞踊」という二つの側面を持ち、あらゆる意味で常に生活に密着した存在である。そして

舞踊は神聖さの度合いによって3つに分類されている。

本研究ではバリバリアンの中でも女性の宮廷舞踊レゴン(Legong)に焦点を当てる。

【バリバリアン(Bali-balihan)】

世俗的な舞踊という意味を持ち、純粋に娯楽のために踊られる舞踊である。

【レゴン(Legong)】

バリを代表する伝統的な舞踊である。レゴン・クラトン(Legong Keraton)「宮廷のレゴン」とも呼ばれるように、もとは宮廷舞踊であり、王のために王宮で踊られていた。

第二章

チャンケットは胸、腰、膝の3点を重要なポイントとした姿勢で、舞踊手はこのチャンケットの姿勢を常に保ったまま踊る。バリ舞踊の基本の姿勢であり訓練の必要な高度なテクニックのひとつである。現在のバリにおいてチャンケットは「美しさ」と捉えられており、そこには舞踊手の体の柔軟性と女性らしさという二つの観点がある。またチャンケットは日常生活においては見られず、舞踊の中にあるからこそ美しいとされ、価値を持つ姿勢なのである。

第三章

現在ではバリ舞踊の代表的な特徴として定着しているチャンケットだが、これは古くからバリ舞踊の技法にあつたものではないと考えられている。というのも1930年代にバリを訪れた画家ミゲル・コバルピナスによって撮影されたフィルム「Bali1930」に腰を曲げていないレゴンの映像が残っているのである。



1930年代のレゴン

これに関し宮尾は「アグン・マンダラの改良だとされる」(宮尾、2007:188)と述べる。そしてその根拠としてアグン・マンダラという人物とその功績、パリ植民地博覧会における海外へのバリ舞踊の紹介、クレオール文化を創り出していったシュピースとのかかわり、などが挙げられる。

第四章

アグン・マンダラの出身村であるプリアタン村で調査を行い、アグン・マンダラの息子であるバグース氏に話を聞いた。彼によるとチャンケットはプリアタン村では1930年代以前から存在していたという。プリアタン村のみで行われていたものがシュピースに認められ、1931年以降の海外公演によって世界でプリアタン村の舞踊が認められたことにより、バリ舞踊のイメージとしてチャンケットが定着し、その結果チャンケットはバリの

他の村にも影響を与え広がっていき、現在のように定着したのではないかと、ということである。

つまりチャンケットは西洋文化の影響や西洋人たちを意識した演出ではなく、元々バリにあった姿勢だと考えることができる。しかしこれは西洋人によってチャンケットがバリ舞踊のオーセンティックな姿勢とされたこと、プリアタン村の姿勢チャンケットが西洋の目に触れることで「バリ舞踊の姿勢チャンケット」として大きな意味を持ち始めたことによるものであり、それは間接的ではあるが、現在のチャンケットという存在に西洋が影響を与えていることになるだろう。

結論

チャンケットは西洋文化の影響によって創られたものではなく、元々バリにあった姿勢であることがわかった。そしてその定着過程が明らかとなった。

そしてそこにはチャンケットをエキゾチックなものとして受け入れ、さらに一つの村の伝統をバリ全体のオーセンティックなものとして捉えた西洋と、その西洋によって新たな意味を付与されたものを柔軟に取り入れ自分たちのものにしていったという、バリのこの時代の背景があったと考えられるのである。

よってチャンケットはもともとバリにあった伝統的な姿勢だが、現在のバリ舞踊の基本姿勢チャンケットはそのような背景を経てきたものであるため、これもバリに多く存在するクレオール文化の一つであり、「伝統の創造」だと言うことができると考える。